

サーブ社とマニュアル作成に関する契約を締結

三菱航空機は、開発を進めている次世代のリージョナルジェット機 MRJ（Mitsubishi Regional Jet）のマニュアル作成に関し、サーブ社とこのほど契約を結んだ。

サーブ・エアロテックのラーシュ＝エリク・ヴィーゲ社長は「三菱がリージョナルジェット機市場に参入を考えていた 2003 年からずっと話し合いを続けており、三菱は日本国外におけるカスタマーサポートにはパートナーが必要であるとの結論を出した。今回の契約締結は、両社にとっての今後の協力関係における第一歩と言える。三菱は革新的な航空機である MRJ を開発しており、同等に革新的なレベルのカスタマーサポートを提供しようと努力している。三菱と一緒に仕事ができることを誇りに思う」と述べた。

当社社長の江川豪雄は「カスタマーサポートについては当社が全責任を持って実施していくが、長年この分野で経験があるサーブをパートナーとして迎え、カスタマーサポートの一分野であるマニュアル作成作業の一部を担当してもらうことについて心強く感じている。お客様に一流のカスタマーサポートを提供するための大きな第一歩となる」と述べた。

サーブは、サーブ 340、サーブ 2000 およびさまざまな軍用機プログラムを通してカスタマーサポートに関する広範な専門知識や経験を蓄積しており、そのグループ傘下の同社はマニュアルにおいては最先端のスペック S1000D^(*)の先駆けとなっている。今回の契約締結により MRJ プログラムは、それらのノウハウを活用できることになる。

開発においては、世界のお客様からの声を反映し、本年 9 月に機体仕様を確定。販売においては、全日本空輸株式会社（ANA）に続き、本年 10 月に米国のトランス・ステーツ・ホールディングス社（TSH）との間で MRJ 100 機購入に関する覚書を締結。さらにカスタマーサポート面においては、今回サーブとの契約により大きな一歩を踏み出した。MRJ プロジェクトは順調に進捗している。

^(*)S1000D：欧州航空宇宙防衛産業連合（ASD：AeroSpace and Defence Industries Association of Europe）が制定する電子マニュアルの規格。複数のマニュアルの記載内容（データ）を一つのデータベース上で管理・共有するため、維持・改訂が容易。他機種ではボーイング 787、エアバス A350XWB で採用予定。

三菱航空機株式会社について

三菱航空機株式会社（通称：MJET）は、三菱リージョナルジェット（MRJ）の設計、型式証明取得、資材調達、販売、カスタマーサポートなどを担当する事業会社として2008年4月1日に事業を開始した。現在の資本金は1,000億円で、三菱重工、トヨタ自動車、三菱商事、住友商事、三井物産他数社が出資している。

MRJについて

MRJは世界最高レベルの運航経済性と客室快適性を兼ね備えた70～90席クラスの次世代リージョナルジェット機。『最先端の幹線機技術を適用し、次世代リージョナルジェット機のスタンダードを創造する。環境、乗客、エアラインへ従来にない新しい価値を提供する。』というビジョンの下、三菱重工がこれまで防衛・民間航空機分野で数多くの開発・製造を行うことで培ってきた世界最先端の航空機開発・製造技術力をベースに三菱航空機株式会社が開発を行なっている。世界最先端の空力設計技術、騒音解析技術などの適用と、最新鋭エンジンの採用により、大幅な燃費低減を実現するとともに、騒音、排出ガスも大幅に削減する。これら圧倒的な運航経済性と環境適合性により、エアラインの競争力と収益力の向上に大きく貢献することを目指す。また、1列4席の配置、大型のオーバーヘッド・ビンの装備、新型スリムシートなどの採用により、これまでのリージョナル機にはない快適な客室空間を提供する。

サーブ社について

スウェーデンのストックホルムに本拠地を置くサーブ社は、民間および防衛に関するさまざまな製品とサービスを全世界に提供している。営業拠点と従業員は全世界をカバーし、時と共に変化するお客様のニーズを満たすために常に新技術を開発し、応用し、改良している。会社設立は1937年で、現在の従業員数は約13,300名である。サーブ・エアロテックはサーブグループの事業部門である。

###